

- 1 派遣期日 平成27年11月17日（火）
- 2 研修先 学校名 宇都宮大学教育学部附属中学校
所在地 〒320-8538 住所 栃木県宇都宮市松原1-7-38
<http://ks002.edu.utsunomiya-u.ac.jp/>

- 3 研修内容

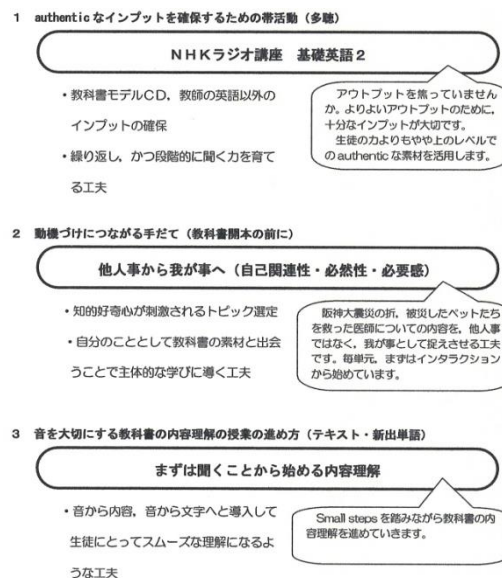
研究主題「一人一人の生徒を伸ばす評価の充実を図り、4技能を総合的に活用するコミュニケーション能力の基礎を養う指導の在り方」

(1) 研修選定の理由

宇都宮大学附属中学校の田村岳充先生は、生徒との英語でのやり取りやペアワークを通して、4技能を総合的に活用しながら、楽しく、コミュニケーション能力を育成する授業を率先して実践している。どのような授業が生徒の意欲を高め、コミュニケーション能力を伸ばせるのかと日々研修に励んでいる。今回は研究授業や公開授業ではなく、通常の授業を参観させていただけるということで、日々の取り組み、積み重ねはどのようなものかを学びたいと考え、選定した。

(2) 指導方針

- ① 生徒の目線に立ち、「できるようになるには時間がかかる」という意識を常にもち、テストの予定などは早めに伝えて目標設定を行う。
- ② 普段の授業で即興力の必要な活動を仕組む。
日頃の準備がなければ本質的な力は身につけることができない。日頃の授業で即興力を必要とする活動を行う事で、学期末に行うスピーキングテストで成長を見ることができ、生徒の自信につなげることができる。
- ③ 確実なインプットを確保するための帯活動として多聴を実践している。より良いアウトプットのためには十分なインプットが必要である。



田村先生が作成した授業参観のポイント

(3) 授業参観（2年2組）

<導入>

- 1 ウォームアップとして歌を歌う。（One Direction “Perfect”）
- 2 基礎英語2を聞いて、簡単な問題を2つ解く。
- 3 ピクチャーカードを用いて本時の内容に関してのやり取りを英語で行う。
ピクチャーカードを手がかりに生徒を話題に巻き込みながら本時の内容に扱う。

<教科書理解>

- 4 モデルCDを聞き、実際に音読をする。
- 5 英語の質問に英語で書いて答える。“If you’re Dr. Hataya, what will you do?”
- 6 「vet（獣医）」という単語を辞書で調べ、省略されていない単語を確認する。
- 7 教科書本文に関する質問に英語で答える。
 - ① What did Dr. Hataya make for homeless pets?
 - ② What did he have to find for homeless pets?
- 8 本文を再度聞いて解答をペアで確認した後に全体で答え合わせをする。
- 9 “relief”という単語の意味を辞書で調べる。

(4) 研究協議

①CAN—DOリストの活用について

CAN—DOリストには to do 型, wish 型, can do 型などがあり, 生徒の実態, 学校の実態に応じて型を見極めて作成すること。作成したら, 生徒の指導と評価にできるかぎり活用すること。ただし, 毎回の授業を反映させるリストの作成と活用は難しいので, 年度末, 学期末に活用できるよう目標設定をして作成することも考えられる。

そして, そのリストに記載されている目指す姿に向かって日々の授業を実践していく。事前準備なしで英語を活用できる「即興力」を身につけさせるためには, 日頃から準備なしで行う書く活動や話す活動を行うことが大切である。

②即興力を問わないスピーチ活動について

即興力を問わず, 事前準備をしっかりとしてから行う話す活動。スピーチや Show&Tell のような活動を指す。準備の段階から原稿は英語で書くべきではない。日本語を英語に変換することは大変難しいことであり, 辞書を活用すればさらに活用や意味の難しい語句を使うことになりかねない。

普段から, 話すことでも書くことでも英語を通して行うことが重要である。日常の授業などで「言えないから・・・」とあきらめさせないで, 簡単な言い換えを考えるように助言することを積み重ねていくことで, 言い換えて簡単なフレーズを使えるようになる習慣が身についてくる。

③4技能の中で, 生徒が苦手意識をもっている, 上手にできない技能について

生徒ができないのは, 苦手であるとときに教師の指導が十分ではないからである。「生徒は誰しもできるようにになりたい」と願っているものであり, その願望を実現させるために手立てを講じるのが教師の本来の役目。それでできたときの達成感を味わわせることで次の学習, ひいては自立した学習者の育成につながる。

生徒のつまずき, 生徒の悩みを的確に把握し, 適切な助言, 手立てを与えていくことが生徒にとっての喜びにつながるのである。そのためには日々の教材研究, そして授業準備をじっくりと行うことが不可欠である。

4 感想

今回の研修では, 4技能を総合的に活用するコミュニケーション能力の基礎を養う指導の在り方のための日々の授業実践を学ぶことができた。「練習なしでスラスラと英語で話してみたい」という生徒の願望を実現させるために, 普段の授業で行っている活動や細かい配慮を知ることでもできた。

授業参観をさせていただき, 「ペアで確認」, 「ペアで対話」など 50 分間の授業内でたくさんの学び合いが行われていたこと, そして生徒の発言やつぶやきを拾い, そこからたくさんの生徒に発問や問いかけを発展させていったことは大変勉強になった。教師はそれらを英語で行い, 生徒は英語, 日本語どちらで答えても良いという安心した約束があるからこそ失敗を恐れずに英語で返答する生徒の姿がとても印象的だった。

研究協議では, 宇都宮大学附属中学校英語科の英語指導方針を学び, 全学年で統一するものは最低限統一し, その他は教師や生徒の実態に応じて個性を活かした展開を行うことの重要性を再確認することができた。

今回の研修を通して, 自分の普段の授業で常に「生徒が自分で考え, 自分で英語で挑戦する」活動を帯活動や終末の活動として仕組んでいくべきだと感じた。そして, 教師自身の英語能力を高めるための日々の研修を欠かさず行い, 「生徒はできるようになるには時間がかかる。焦らずに繰り返し生徒にチャレンジするチャンスを与える」ことを念頭に置いて, 生徒のことを第一に考えた授業改善, 実践を行っていききたい。